

III.実践報告書

【指導案集】

特別支援学校：ザンビアマスターになろう！（北海道札幌聾学校 松村 秀明教諭）

小学校：世界の水とわたしたちの暮らし（鹿追町立鹿追小学校 川上 光陽教諭）

小学校：ほかのくにの 人たちと（音更町立木野東小学校 杉村 萌教諭）

小学校：健康な生活のために ～Health living I see you～（中富良野町立中富良野小学校 平山 将典教諭）

中学校：マフンジロが世界を変える？（標茶町立標茶中学校 小板橋 祥記教諭）

中学校：自分たちの生活を見直そう（当別町立西当別中学校 中尾 綾香教諭）

高等学校：この問題を解決すれば済む問題？（帯広南商業高等学校 青山 紘子教諭）

高等学校：アフリカの魅力とこれからの課題 -ニムコンダアフリカ-（北海道千歳高等学校 田中 眞教諭）

※氏名・所属は、参加当時のものです。

※教員及び児童生徒による原文を生かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。また、記載内容はJICAの見解とは異なる場合があります。

本章より指導案や教材等の紹介となります。

右ページは、特別支援学校札幌聾学校の松村教諭による指導案です。

本誌の作成にあたり松村教諭より寄稿がございました。

松村教諭の指導案をご覧になる前にお読みいただくと幸いです。

伝えようとする気持ち ～ザンビアの聾学校を訪問して感じたこと

松村 秀明




聴覚障がいと言っても、聞こえ方には一人一人、大きな差異があります。また、補聴器や人工内耳は聴覚障がいがある人にとっては大きな助けとなりますが、それをつけていれば、健常者と同じように聞こえるというわけではないのです。そして、聴覚障がいのコミュニケーション方法は、障がいの種類や程度のみならず、聴覚障がいが生じた時期や家庭環境などによって、一人一人異なり、手話、筆談、口話、聴覚活用など様々な方法がありますが、どれか一つがあれば十分ということではなく、多くの聴覚障がい者は話す相手や場面によって複数の手段を組み合わせたり使い分けたりしています。これが日本の聴覚障がい者のコミュニケーションの現状です。


ザンビアに行って驚いたのは、聴覚障がいの児童生徒が補聴器などを全く使用していないということです。現地の人に尋ねると、児童生徒にとっては、補聴器などは高価なものである上、修理できる場所が少ないことが理由のようでした。せっかく高いお金を出して買った補聴器も壊れたらおしまい、使い捨てのような状況です。ザンビアの特別支援学校ではアメリカ手話を基本的にコミュニケーションしていました。私は、アメリカ手話はわかりませんでした。日本の手話で表現しながら、通じない部分はアルファベットを表す指文字で示していくと次第に心が通じ、「伝えようとする気持ちがあれば通じ合える」と感じました。この気持ちがあれば、国や障がいなどを越えて伝わっていく、そう思えた瞬間でした。

2025年11月には東京で聴覚障害者のオリンピックである「デフリンピック」が日本で初めて開催されます。初開催のパリ大会から100周年の節目という記念すべきイベントに、世界70か国以上のデフアスリートが日本に集結し、21もの競技で熱い戦いが繰り広げられます。是非温かい応援をお願いします。皆様からの温かな声がきっと選手たちを勇気づけることでしょう。

生活単元学習

ザンビアマスターになろう！

\ 関連するSDGs /






- ① 氏名：松村 秀明
- ② 学校名：北海道札幌聾学校
- ③ 学年：重複学級5・6年(7名)
- ④ 実施教科(領域)：生活単元学習

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：ザンビアマスターになろう！
2. 単元の目標(評価規準を意識して設定)： 日本とザンビアの違いや同じところに気づく。 日本とザンビアの同じ点や違う点を考えて、発表することができる。 ザンビアの子どもたちの生活に興味・関心を持つ。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力 ③主体的に学習に取り組む 態度	2枚の写真やイラストを見て、日本とザンビアのどちらなのか気づくことができる。 日本とザンビアの同じ点や違う点について考えて、発表することができる。 ザンビアの子どもたちに興味・関心を持つ。
4. 単元設定 の理由・単元 の意義 (児童/生徒 観、教材観、 指導観)	【単元設定の理由】 ・今回の研修では、ザンビアの人々の生活面だけでなく、学校訪問や協力隊員の活動場所への訪問、自然環境など多岐にわたって学ぶことができた。また、そこで出会った人々との交流も、とても温かく、心に響き、有意義で貴重な経験となった。特にザンビアの聾の子どもたちとの交流を通して、私が強く感じたのは、「国によって手話が違っても心は通じ合える」ということである。日本の聾の子どもたちは、特に社会経験が少ない傾向がある。ザンビアについての授業を通して、同年代の聾の子どもたちに関心を持ち、日本の文化や自分自身について考えるきっかけになってほしいと考え、本単元を設定した。 【単元の意義】 ・本単元では、授業者が実際にザンビアに行って、交流しながら撮影した写真や動画を教材として活用する。子どもたちにとっては身近な教師の生の体験をもとに授業を実践することによって、より身近にザンビアを感じ、現状を想像することができるのではないかと考える。また、写真や動画など視覚的に情報を与えることで、子どもたちの理解を助け、活発な活動ができると考える。	

<p>【児童／生徒観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度 JICA 北海道の異文化交流プログラムを利用して、アフリカの 4 名の方に学校を訪問していただき、国旗や国の食べ物などの説明や民族楽器と衣装の体験をした。これを踏まえて、今回は教師が実際に訪れた別のアフリカの国ザンビアを紹介した。本学級は、重複学級の児童であり、実態はさまざまである。聴力の差もあるため、手話と日本語の他にも、パワーポイントなどで視覚的に提示をするなど、様々な方法を使用している。また、日本語で書く活動には時間を要するため、感想発表などは手話でみんなの前で発表するだけにしている。国語の作文の活動などでは、手話で表現をしてそれを動画で撮ってからその動画を元に書記日本語として作文を書くなどの取り組みをしている。 <p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の授業を通して、異なる文化や価値を排除するのではなく、受け入れていくことで、人は、そして社会はより豊かになっていくと考える。児童には、「ちがい」があることが悪いことではなく、それがあることによって豊かになる、良いものであるということを伝えていきたい。そして、児童 1 人 1 人が自身の障がいや性格などを、前向きにとらえ、自信を持ってほしいと願っている。
--

5. 単元計画 (全 2 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	ザンビアのことについて知る。	昨年行った異文化交流を思い出し、アフリカの国の場所、服装、食べ物、楽器などを確認する。	スライド 実物 食べ物 アサルト (アフリカの楽器)
2	「ザンビアマスターになろう！」 2 枚の写真からザンビアと日本の同じや違いについて考え、気づく。	写真や実物が何なのか考える。	

6. 本時の展開 (2 / 2)			
本時のねらい： 2 枚の写真からザンビアと日本の同じや違いに考え、発表することができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	ザンビアについて説明する。 「今日もザンビアのマツムラさんの登場です。」 世界地図を見せる。 「日本はどこですか？」 「ザンビアはどこですか？」 『ザンビア』という国名を手話でどう表現するか覚えていきますか？」 「今日は皆さんにクイズを出します。2 枚の写真を見てどちらがザンビアか日本か答えてください。」	昨年度行った異文化交流と同じ方法を用いて説明	スライド

<p>展開 (30分)</p>	<p>クイズ (どっちが日本? ザンビア?) グループに分かれて2枚の写真からどちらが日本かザンビアかを考えて理由もつけて発表する。 コンセント、カラス、KFC、スーパー、ゾウ、教科書</p> <p>問題1 コンセント 「コンセントの形はどうなっているかな?」 「これがコンセントプラグです。」</p> <p>問題2 カラス 日本のカラスと違うところはどこだろう? 「アフリカのカラスは、ムナシロカラスと言って胸が白いんです。大きさは日本のカラスは大体53cm位。アフリカのカラスは45cm位で少し小さいです。」</p> <p>問題3 KFC 「さて、みんなも大好きなKFC。先生も行ってきました。」 「値段は、大体730円くらいでした。味はザンビアの方が少し濃かったです。」 「これがザンビアのKFCのケチャップです。」ザンビアKFCのケチャップを見せて、表示が英語になっているなどに気づかせる。世界にはKFCがある。ザンビアには、マックがない。代わりにハングリーライオンというお店がある。</p> <p>問題4 スーパー お菓子売り場の写真 スニッカーズなど日本と同じものも売っている。ザンビアのお金も紹介する。</p> <p>問題5 ゾウ 「どちらのゾウもアフリカのゾウですが、こちらは円山動物園に住んでいます。こちらはザンビアのゾウです。」 「ザンビアのゾウがいるところには、このような機械がありました。何の機械かわかりますか?横には静かにしてください。と表示されています。」「ザンビアではゾウを捕まえる人がいます。親がいない赤ちゃんゾウをこの施設で育ててまた自然に返すためになるべく音をたてないようにしています。」</p> <p>問題6 学校 「これは、ボーナス問題です。」</p> <p>問題7 校庭 「引き続きボーナス問題です。」 「ザンビアの学校にも札幌聾学校と同じよう</p>	<p>コンセントの形に注目</p> <p>カラスの毛の色に着眼</p> <p>KFCは、最初は建物の写真だけ。その後店内やメニューを見せる。ザンビアのケチャップを見せる。値段や味の違い、教師の感想も伝える。</p> <p>スーパーの写真では、同じお菓子でも表記が英語と日本語の違いがあることに言及。</p>	<p>コンセント (写真) プラグ (実物)</p> <p>カラス (写真)</p> <p>KFC建物 (写真) KFC店内、メニュー (写真) KFCのケチャップ (実物)</p> <p>お菓子売り場 (写真) ザンビアのお金 (実物) 日本のお金 (実物)</p> <p>円山動物園とザンビアのゾウ (写真)</p> <p>音声センサー (写真)</p> <p>学校 (写真)</p> <p>校庭 (写真)</p>
---------------------	---	---	---

<p>まとめ (10分)</p>	<p>に中庭があってブランコとか遊ぶところがあって子どもたちも遊んでいますね。」 風船で遊んでいる動画を提示。 「これは別のザンビアの学校ですが、このように風船で楽しく遊んでいます。みんなも風船バレー大好きですよ。」</p> <p>問題8 教科書 「これは、1年生の算数の教科書です。どちらも足し算の問題ですね。」 チャイナマ特別支援学校の教室の写真を提示 「これは、先生が訪問したチャイナマ特別支援学校の小学2年生の教室です。」 掛け算の写真を提示。 「これは、何かわかりますか？そうです。掛け算2の段の表です。こうやってザンビアの子どもたちもみんなと同じように掛け算の勉強をしているんですね。」 他の教科書も紹介する。</p> <p>子どもたちが手話をしている動画を見せる。 「そして、ザンビアの子どもたちも手話を使って勉強していました。なんとなくわかるかな。今度、英語の時間にアルファベットの指文字を勉強しましょう。」</p> <p>「今日の勉強で、わかったこと、思ったことなどを発表しよう！」</p> <p>1人1人、学習を通して感じたこと、学んだことを発表する。 発表した児童にザンビア国旗を貼り付ける。</p> <p>「みんな、発表できたのでザンビアマスターになりました。次は英語マスター目指しましょう！」</p>	<p>教科書は、内容が似ていることもある。教師が学校を訪問したことを伝える。</p>	<p>学校の様子の写真と動画</p> <p>ザンビアの教科書</p> <p>学校の掲示物 学校の様子の写真と動画</p> <p>ザンビアの国旗シール <u>参照：53 ページ</u></p>
<p>7. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>2枚の写真を比較してどちらが日本かザンビアか理由をつけて発表することができる。 学習を通して学んだことを発表することができる。（ザンビアの国旗シールを手に入れる）</p>			

【参考資料】

資料および外部との連携

「私たちの地球と未来」 ザンビア共和国 （愛知県国際交流協会）

ザンビアの教科書 小学1年 算数（オックスフォード出版）

Chabwino Times【現職ザンビア派遣隊員発行の学校だより】松本隊員

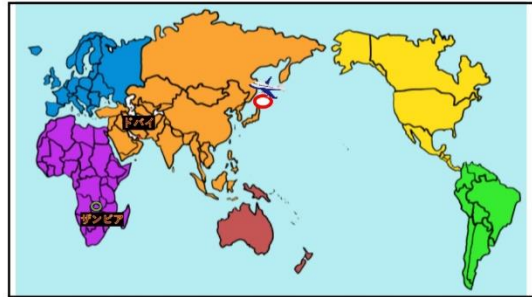
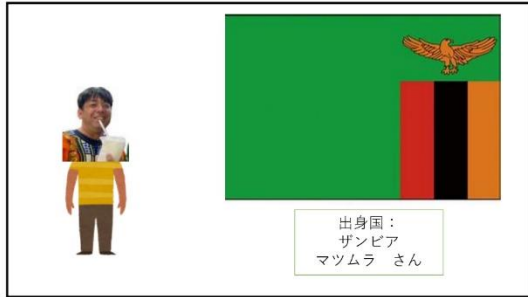
ザンビア チャイナマ特別支援初等学校（村上隊員）から動画提供

【自己評価】

苦勞した点	写真をはじめ、現地で得た多くの情報の中から、授業で子どもたちに伝えたいものを選んで絞っていくのが難しかった。自分自身が実際に見たり、聞いたりしてきた分、「あれも伝えたい、これも伝えたい。」と欲張ってしまっていた。
改善点	1時間の授業に詰め込みすぎてしまい、すべてを終えるのが難しかった。子どもたちの実態を考えて、2枚の写真からザンビアと日本がどちらか選んでもらう活動にしたが、共通点や相違点を自由に発表させるという観点で考えると、1枚の写真やイラストなどを見せてそれについて思うことを発表する活動の方が良かったと感じた。
成果が出た点	児童が、同年代の聴覚障害の子どもたちの手話にとっても興味を持ってきていた。今後、アメリカ手話を活用した英語の指導やザンビアの児童生徒との交流も考えており、来年度に繋げていけると感じた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	授業後に、ザンビアの国旗シールを自分のアイパッドや棚に貼ったり、このシールを大切にしてくれている児童たちの様子が見られた。授業後には、外国の話を聞かせてほしいと伝えてくれるなど異文化に興味を持っている様子も見られた。 <u>参照：53 ページ ザンビアの国旗シール</u>
授業者による自由記述	次年度は聴覚障害者のオリンピックであるデフリンピックが初めて東京で開催される。ザンビアだけではなくデフリンピックの参加国など国を増やして引き続きこのような授業を実践していきたい。
次年度以降の取組予定	現在、本校では、英語や外国語活動の授業で、アルファベットの手話を使用している。隊員から提供いただいたザンビアの児童生徒の紹介動画を見て、アルファベットの手話を読み取るなどの学習に取り組んで、交流につなげていきたい。

進行中

スライド

ここでしつもんです。 

• ザンビアにカラスはいるでしょうか？

 どっちが日本？ ザンビア？ 

からす

 4.5 cm  5.3 cm

またまた、しつもんです。 

• ザンビアにマクドナルドはあるでしょうか？

ハングリーライオン

 どっちが日本？ ザンビア？ 

KFC (ケンタッキー)

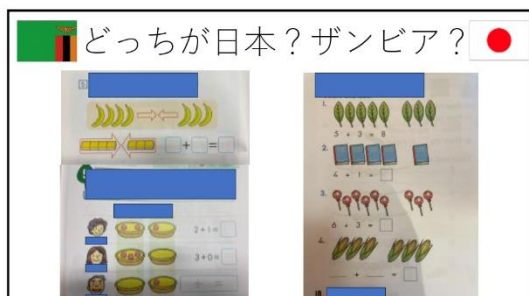
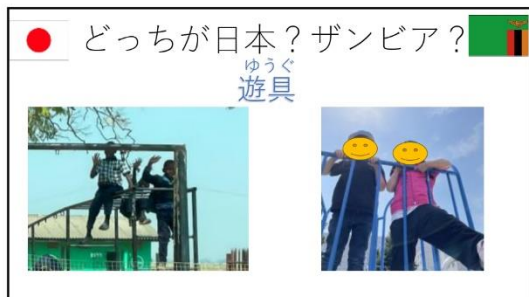
   

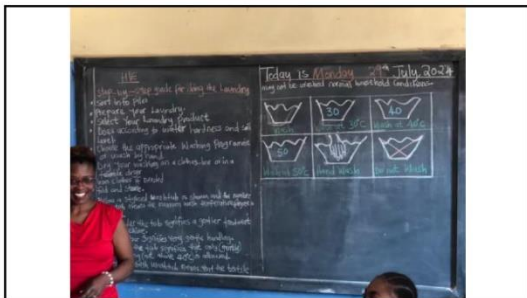
1540円   730円  

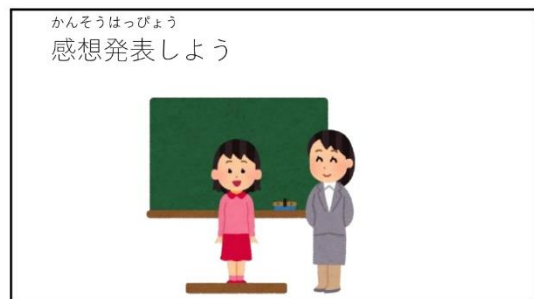
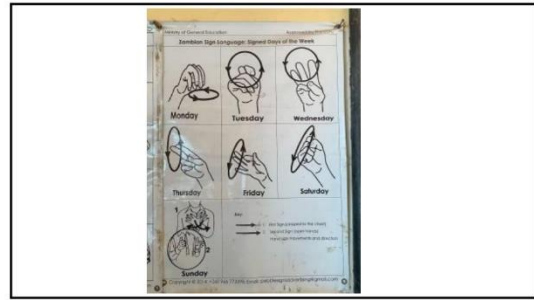
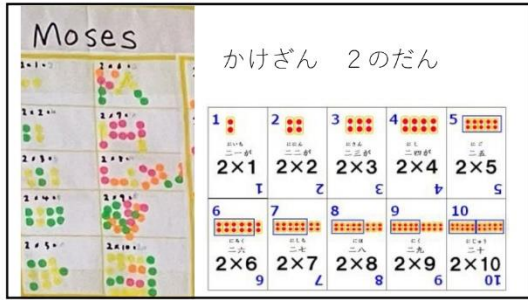
 どっちが日本？ ザンビア？ 

おかし



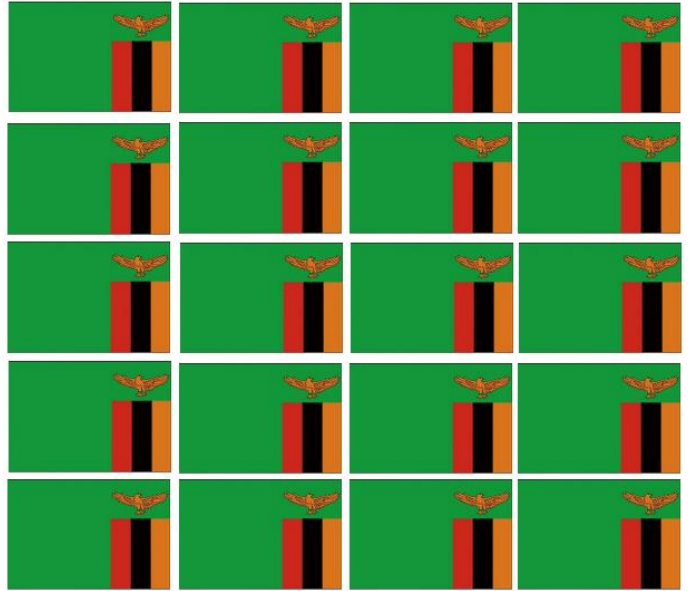




(教材 ザンビアの国旗シール)



ザンビアの
国旗シールを
GET !!



旅

の

思

い

出

わたしの一枚

タイトル： ザンビアの聾（耳の聞こえない）の子どもたち



写真を撮った場所： ザンビア チャイナマ特別支援学校

ザンビアの聾（耳の聞こえない）の子どもたちとの写真である。

ザンビアでは補聴器をしている子どもたちはいない。理由を聞くと故障しても直す部品や技術がない、また気候的にも乾燥しているので壊れやすいとのことだった。聾学校に勤務している私にとって初めて海外の聾の子どもたちと会って手話をした。ザンビアの手話と日本の手話は別の言語であるが、伝えようという気持ちで接すると通じていると実感できた。「気持ちがあれば、心は通じ合える。」

この体験をこれから、日本の聾学校の子どもたちにも伝えていきたいと思った。

氏名： 松村 秀明

学校名： 北海道札幌聾学校